

令和7年第2回浦安市在宅医療・介護連携推進検討委員会（議事録、資料）

1. 開催日時 令和8年3月6日（木）午後7時～午後8時30分

2. 開催場所 浦安市文化会館

3. 出席者

（委員）

井出博生氏、副島克行氏、山田智子氏、飯田哲也氏、高橋秀人氏、大輪美保氏、小野田雄太氏、内堀昭宣氏、小崎綾子氏、正岡美奈子氏、立島徹二氏、水口雅博氏、森林友佳子氏、並木美砂子氏

（事務局）

八田福祉部次長、梅澤健康増進課長、佐藤国保年金課長、鈴木浦安駅前地域包括支援センター長、浅野富岡地域包括支援センター長、浅地高洲地域包括支援センター長、榎本新浦安駅前地域包括支援センター長、高洲地域包括支援センター菊川氏、猫実地域包括支援センター平井氏

高齢者包括支援課：雨宮課長、岡崎介護予防推進係長、宇田川、岡崎

（傍聴者）2名

4. 議題

（1） 令和7年度浦安市在宅医療・介護連携推進事業 実績報告

（2） 浦安市在宅医療・介護連携推進委員会 部会検討内容の報告

① 令和9年度以降の『浦安市情報共有システム』の運用について

② 『簡易版エンディングノートの作成普及』について

③ 地域新聞への在宅医療・介護に関するコラムの掲載について

5. 議事の概要

（1） 令和7年度浦安市在宅医療・介護連携推進事業 実績報告

事務局から、以下の内容について説明した。

- 浦安市版エンディングノート わたしの手帖
- 市民講座
- 多職種連携研修会

（2） 浦安市在宅医療・介護連携推進検討委員会 部会検討内容の報告

①令和9年度以降の『浦安市情報共有システム』の運用について

事務局から、部会での検討結果「令和9年度の現システムの契約満了をもって、市が主体となる情報共有システムの導入をしない」こととその結果に至る経緯を説明した。

## 質疑応答・意見交換

委員長：情報共有システムについて、報告内容に補足があるか部会員の方に伺う。

委員：事務局から報告があったとおり、現システムにおける患者部屋はほとんど稼働してない。その理由としては、登録が煩雑、またセキュリティが厳しいがゆえに、利用するまでにハードルがあるという問題がある。あとはICTを取り巻く環境が変わったことが一番大きいのではないか。

ここ数年で、LINEのようにスマホで見られる無料連絡ツールがいくつもある中で、あえて現システムを使わなければいけない場面がなくなったということが理由だと考える。

委員：それぞれの事業者で求めているものが異なる、共有したい情報が異なっていることが一番大きいと思う。また、これから国がどのようなシステムを普及していくのかわからない中で、市としても新たなシステムを導入するのかといったところも議論し、このような結果となったと思っている。

委員長：部会員の内堀委員、いかがでしょうか。

委員：委員からも意見があったように、職種によって求める情報・スピード感が異なり、なかなか普及しなかったこと、在宅介護・医療の現場で利用しにくかったことが、一番の原因ではないかと考える。

システムのセキュリティのハードルが高く、変えられないところが一番大きいと考えるので、この2点が変わらない以上、委員からも意見があったように、アプリで簡単に情報共有ができる中で、セキュリティの高い現システムを使う必要性があまり感じられなかった。

委員：委員が言われるように、事業者間で連携することが必要で現システムを導入したが、実際に現システム使ってみると、使いにくく、システムを通さず直接やりとりしたほうが良いという状況になった。それだったら、それぞれの事業者に合ったやり方で医療・介護連携をした方がよいのではないかとということに部会で落ち着いた。

委員長：令和9年度以降は、市が主体となって情報共有システムは導入しないというような結論に対して、部会員と兼務していない委員に意見を伺いたい。

委員：現システムの利用については理解をさせていただいた。この委員会という機会があるので、それぞれの事業者で実際に使用しているシステム等を共有しながら運用していくやり方もあると考える。市が主導するひとつのシステムにこだわらずに、使い勝手の良いシス

テムから参加をしていくような方向で考えたら良いのではないか。

委員長：現在、それぞれの委員が使っているシステムがあると思うが、各事業者の使い勝手の良いもの、導入しやすいものを調べてみるのが良いのではないかと私も思う。

委員：部会において、検討を繰り返し、部員が苦心をされている状況を聞き、セキュリティの煩雑さについて議論されていたことが印象的であった。

病院として、様々な事業者から様々なシステムを通して連絡が来たとき、管理が難しい状況になることが大きなハードルだと感じていたので、何に対して連携するのか、どこと連携するのか、そのシステムを導入できるかどうかを、組織として明確にし、検討していければ良い。

委員長：いろいろなシステムがあるなかで、導入可能かどうかとはいうのは、病院側にもセキュリティポリシーがあるので病院として見極めないといけないということですね。

森林委員：地域包括支援センターが市の機関ということもあり、やはりセキュリティが厳しいというのは大原則のうえで情報を共有しなければならない。現システムはセキュリティが高いため、地域包括支援センター同士の情報共有のツールとして使っているが、逆により使い勝手を良くすると、セキュリティが甘くなり、利用することは難しいのではないかと思う。

委員長：個人情報保護を含め、セキュリティが高くなる半面、使い勝手が悪くなるので、両者を両立させるのは難しいと思って伺っている。

委員：医療・介護連携システムを導入することを契機としてこの委員会も立ち上がり、長年議論していただいたうえで、現システムを導入するということになった。実際に使ってみると、やはりセキュリティが高いゆえの、煩雑さ・スピード感の無さなど、簡便性の部分で委員の皆様から使い続けることが難しいという意見があがったため、どうにかならないかと検討も重ねさせていただいた。事務局からの説明通り、市のセキュリティポリシー自体は変更する可能性は低く、市としては個人情報を共有するため、やはりその漏えいについては厳しい面もあるので、市が主体となってシステムを導入し続けていくことは厳しいという判断になったのは、致し方無いと考える。また情報連携をしていくためのツールとして議論いただいたが、今回なかなか運用が進まなかったことについては本当に残念に思っているし、委員の皆様の大変なお時間をいただいた上でこういう形になってしまったことを大変申し訳なく思っている。

市としても、今後は国の動向なども見ながら、機が熟せばまたシステムを利用しての連携

ができる可能性があるのではないかと考えている。

今回は、市が主体ではない形で、それぞれの機関や職種の利用目的に即したシステムを利用していただくということになったのは致し方ないと考えている。

委員長：契約が終了する令和9年度まで現システムを使用できるということと、先ほど委員から提案いただいたが、各事業者がどのようなシステムを使っているのかということを一度調べてみるのも良いのではないかと。

個人的には、現在、市単独で、システムを導入し主導していくことは難しいと感じている。国の動向を見ながらでも良いのではないかと。

委員：委員が述べられたように、今までの議論を積み重ねた上で将来どうするか、今後の委員会や部会において検討することが、市として、それぞれの事業所として、大事だと考えている。

各事業者の努力だけではなく、市として、何かバックアップする仕組みがあると良い。今回の結論に至った先の一步として、何か市として行うことを期待しているので、ここまでの議論を、次に生かせるようにしていただきたい。

委員長：部会の結論として、先ほど事務局から提示した、現システムの運用を令和9年度までとし、市として新たに情報共有システム導入しないという結論について、委員会でもこちらの結論でよろしいかと。

全員：はい。

### (3) 浦安市在宅医療・介護連携推進委員会 部会検討内容の報告

- ② 『簡易版エンディングノートの作成普及』について
- ③ 地域新聞への在宅医療・介護に関するコラムの掲載について

事務局から、上記について説明した。

### 質疑応答・意見交換

委員長：まず、エンディングノート「わたしの手帖」の簡易版作成にあたり、立候補で作成に携わっていただいた部会員の方に感謝申し上げたい。

簡易版エンディングノートについては、前回の委員会での議論で委員の皆様から意見いただいたことを既に取り入れているが、今一度取り入れたほうが良いと思う項目、簡易版エンディングノートの普及啓発の方法（配布場所やどうしたら行き渡るのかということなどについてご意見をいただきたい。

委員：エンディングノートの簡易版を作成することで、より市民にとって気軽に使えるものになったのではないかと思います。浦安市はこの簡易版エンディングノートの発行部数をどのくらい見込んでいるのか、伺いたい。

事務局：令和 8 年度の予算編成時期と簡易版エンディングノートの企画時期との兼ね合いにより、令和 8 年度予算の印刷製本費として計上していないため、高齢者包括支援課自前で印刷製本をする予定である。まずは 500 部と見込んでいる。需要があれば、令和 9 年度予算として計上する予定である。

委員：私としては、どこで市民に渡せるかと考えたところ、市民が初めて介護サービスを使うときのコミュニケーションとして使いたいと考えている。簡易版エンディングノートを「持っていますか？」から始め、もし持っていなければ「このような冊子がありますよ」と気軽に簡易版エンディングノートの存在を伝えられることができれば良いと思った。

もしくは事業所が、簡易版エンディングノートをコピーして渡してもよいのであれば渡したいがいかがか。

事務局：通常版エンディングノートはホームページに PDF を掲載している。市民が印刷し、利用することを想定しているので、簡易版エンディングノートについてもホームページに掲載することを検討していきたい。

委員：私もホームページからダウンロードができればと考えていた。ただ、製本・綴じ方に工夫がされているので、ホームページへの掲載の仕方にも気を付ける必要がある。本当に市民に使っていただきたいと思っているので、是非検討して欲しい。

委員長：ページの置き方を工夫すれば、市民も印刷がしやすいと思う。

委員：以前、部会か委員会で、市民が病院に救急搬送された際、お薬手帳を持参されていた方が多い話を伺い、簡易版エンディングノートをお薬手帳と一緒に携帯すると医療関係者も本人の意思・状況を確認しやすいと改めて感じた。

簡易版エンディングノートはお薬手帳と同じサイズなので、薬局で配布できたら良いと考える。

また市民が介護保険の申請後、介護認定の結果通知や介護保険証が郵送される際、一緒に簡易版エンディングノートも配布されれば、市民が目にする機会が格段に増えると考えます。本人だけではなく、その家族も巻き込んで簡易版エンディングノートを書くことが出来るのではないかと。

あとはお薬手帳にはビニールカバーがついているので、簡易版エンディングノートを挟むスペースがある。薬局で介護保険と在宅医療を受けられる方に対して、積極的に配布しやすいと感じる。ただ、最初は発行部数も限られているので、後々検討していただければと思う。

委員：救急病院に勤務するものとして、簡易版エンディングノートをお薬手帳と一緒に市民の方が持ってきてくれたらとても助かる。最近、単身高齢者の方で意思決定ができない方が来院されることが多く、本人が何を希望していたかについて知ることが難しい。

本人から聞くことができない場合は、ケアマネジャー等に連絡を取り、本人が元気な頃にどう考えていたのかなど、色々な情報を収集し、病院のカンファレンスで本人の今後について方針を決めているので、簡易版エンディングノートの記載があれば、本当にありがたい。

委員：先日、地域包括ケア会議の場で、民生委員の方から「わたしの手帖」の簡易版があれば良いという意見が出ていたので、需要があるのではないかと感じた。

委員：複数の委員からの話にあるように、簡易版エンディングノートをデータ化し、ダウンロードができるような状況があれば、病院としても配布を進めていきたいと思っている。

簡易版エンディングノートの中身については、2ページ目下段の「大切な判断を任せたい人の欄」の連絡先、あと10ページの「連絡して欲しい人」欄で連絡先とあるが、連絡先は電話番号なのか、メールなのか、意図があつてなのか、伺いたい。

事務局：2ページ目「大切な判断を任せたい人」は、キーパーソンを想定している。10ページの「連絡して欲しい人」欄は、最期の時に、連絡を取って欲しい人、例えば友人、知り合いを想定している。

委員：電話番号なのか、メールアドレスなのか、直接連絡する先を記載すると思っていたが。

事務局：基本的に個人情報に直結するものは、エンディングノートを紛失する可能性を考えると記載しない方がいい面もある。

簡易版エンディングノートはお薬手帳と一緒に携帯するということがポイントでもあるので、最低限の情報を記載する仕様になっていると考える。

委員：配布先については、地域包括支援センターに配架するのが良いのではないかと。病院側としても、患者へアナウンスができること、また、エンディングノートを薦める側としてのレクチャーを受けることが有用ではないか。

エンディングノートの普及啓発活動という観点から、市の出前講座において老人クラブ

などの団体に市がアナウンスをし、そこから波及していくことが良いのでは。市民が自身でホームページからダウンロードした方が有効活用できるのではないかと考えている。

委員：中身について、何点が気づいたことを挙げたい。委員の話にもあったが、地域包括支援センターで関わる市民の方は身寄りがいない単身高齢者であることが多い。簡易版エンディングノートでは「大切な判断を任せたい人」欄は「大切な判断を任せたい人」が居る前提で記載されている。あと一番最後のページの「大切なあなたへ」欄もメッセージを書く相手がない方もいるので、表現の仕方を変えても良いのでは。例えば「大切な判断を任せたい人がいない人は、ともづなへ」など。「自分がもし本当に何かあったときのこと、自分の今後のことを、誰かに相談してみませんか。」はいかがであらうか。単身者で大切な判断を任せたい人がいないのであれば、ともづなへの相談につなげることも良いのではないか。あくまで、判断するのは地域包括支援センターという意味ではなく、相談に乗る場所があるということにつなげていきたい。

また簡易版エンディングノートを書いた自分の気持ちを書いても良いのでは。簡易版エンディングノートを記入した日付も記載するのが良い。

病院として本当は活用したいのは、単身者でなかなか人と繋がりにくい方だと考えるので、誰が簡易版エンディングノートをその人に渡すのか、またその人自身がどういったときに簡易版エンディングノートを手にとることができるのかも今後の検討課題だと思う。

委員長：エンディングノートを配布するだけでなく、使い方や記入の仕方、また配布する側としての普及啓発を含めて今後の検討課題として、様々な意見を委員からいただいた。

来年度簡易版エンディングノートを少ない部数から発行することに関し、以上の意見を踏まえて改良もあり得ると考えるので、また一緒に考えていければと思う。

委員：皆様には本年度もお忙しい中、本市の在宅医療介護連携事業に多大なご協力いただき、本当にありがたいと感じている。本委員会は医療・介護連携をするためのシステム導入に関し立ち上げたところもあるが、本市の高齢化率が、現在 19%を超え、要介護認定率も 16%、75 歳以上の方は 25.6%と 4 人に 1 人の方が認定を持っているような状況になっているので、この在宅医療介護の連携がますます不可欠になっていると考えている。

市としても、令和 8 年度には専門職の方が本来業務に注力できるような人材確保や定着の一助になるように、新たに訪問系の事業所を対象に、事務職の人件費を補助するような制度を創設していきたいと思っている。

また、頼れる身寄りのない高齢者についても議論にのぼったが、金銭管理や入院・入所の手続きがなかなかできず、心配を抱える高齢者の方もますます増加するなか、現在のこのエンディングノートの活用や市民公開講座など、元気なうちから市民一人一人が人生の最終

段階に向けて取り組んでいくことも大切だと考える。

また、いわゆる身寄りのない高齢者の支援も含めた、終活の支援のあり方についても、別途市の方で検討していく予定でいるので、今後も引き続き委員の皆様には本市の福祉行政に対して現場の声をたくさん届けていただいて、よりよいものにしていきたいと考えている。

令和7年度 第2回 浦安市在宅医療・介護連携推進検討委員会

令和8年3月6日（金）  
19時00分から20時30分  
浦安市文化会館大会議室

1. 委員長挨拶

2. 議題

- (1) 令和7年度 浦安市在宅医療・介護連携推進事業 実績報告
- (2) 浦安市在宅医療・介護連携推進委員会 部会検討内容の報告
  - ① 令和9年度以降の『浦安市情報共有システム』の運用について
  - ② 『簡易版エンディングノートの作成普及』について
  - ③ 地域新聞への在宅医療・介護に関するコラムの掲載について

3. 連絡事項

令和7年度

第2回 浦安市在宅医療・介護連携推進検討委員会

---

令和8年3月6日(金)

19:00~20:30

浦安市文化会館大会議室

# 本日の議題

1. 令和7年度 浦安市在宅医療・介護連携推進事業 実績報告
  
2. 浦安市在宅医療・介護連携推進検討委員会 部会検討内容の報告
  - ① 令和9年度以降の『浦安市情報共有システム』の運用について
  - ② 『簡易版エンディングノートの作成普及』について
  - ③ 地域新聞への在宅医療・介護に関するコラムの掲載について

# 1. 令和7年度 浦安市在宅医療・介護連携推進事業 実績報告

---

# 浦安市版エンディングノート わたしの手帖

- 作成:7,000 部
- 配布数:6,110 部 (R6 配布数:5,963 部)

配布先	部数
市民（個人）	218
市民（老人クラブ、サロン等）	214
市主催イベント参加者	2,997
市関係機関（ともづな等）	485
医療機関	1,512
介護事業所	684
計	6,110



# 市民講座 もしもの時に慌てない!! 医療と介護のそなえ講座

実施日:8月29日(金)

場所:浦安市文化会館 小ホール

## ● 講師

浦安市医師会

山田 智子 氏

浦安市ケアマネジャー連絡会

大輪 美保 氏

タムス浦安病院

村瀬 恵子 氏

## ● 内容

もしもの時に自分が思う医療や介護を受けるための備えを医師、ケアマネジャー、病院スタッフがそれぞれの視点からお伝えする。

## ● 参加者 281名

無料 令和7年 市民講座 事前申込必要

もしもの時に慌てない!!

医療と介護のそなえ講座

8/29 金 10:00~12:00

リアルな現場の声

医師が語る  
浦安市医師会 副会長  
ひまわりクリニック  
医師 山田 智子氏

ケアマネジャーが語る  
浦安市ケアマネジャー連絡会  
みずたま介護ステーション  
ケアマネジャー 大輪 美保氏

病院スタッフが語る  
タムス浦安病院  
地域連携室  
村瀬 恵子氏

会場 浦安市文化会館 小ホール 浦安市猫実一丁目1番2号 (市役所 隣)  
浦安市文化会館の専用駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

対象者 浦安市に在住、在勤の方 先着 200名 (事前申込必要)

申込方法 7月15日(火)9時から8月28日(木)まで ①、②いずれかの方法で  
① 電話で高齢者包括支援課へ ☎ 047-712-6389  
② 右記QRコードから

【主催・問い合わせ】 浦安市高齢者包括支援課 電話:047-712-6389

# 市民講座 もしもの時に慌てない!! 医療と介護のそなえ講座

## ○申込者年代】

年代	人数
20代	1
30代	2
40代	3
50代	32
60代	34
70代	102
80代	88
90代	5
不明	14
合計	281

## ○「医療や介護が必要になった時の備え」は大切だと思いましたが

回答	人数
1. 思った	197
2. どちらともいえない	2
3. 思わない	0
4. 未回答	0
合計	199

参加者は70～80歳代が中心で約9割の方が「そなえは大切」と回答しており、医療・介護への関心の高さがうかがえる結果となった。

50歳代の参加も一定数あり、現役世代にも医療・介護に関する意識が広まりつつある。

# 市民講座 もしもの時に慌てない!! 医療と介護のそなえ講座

## ○もしもの時にそなえて行っていること

回答	人数
1. 情報収集(医療や介護に関すること)	92
2. 家族ともしもの時の話し合いをしている	64
3. かかりつけ医を決めている	64
4. 延命治療などについて意思を示している	76
5. お金の準備	68
6. 何もしていない	26
7. その他	3

※複数回答あり

## ○「わたしの手帖」を知っていますか

回答	人数
1. 知っていた	121
2. 知らなかった	75
未回答	3
合計	199

医療や介護に関する情報収集や意思表示など、何らかのそなえを行っている人が多い結果となった。一方で、「何もしていない」と回答した方も参加しており、備えのきっかけづくりの場となった。

# 市民講座 もしもの時に慌てない!! 医療と介護のそなえ講座

## 参加者の感想(抜粋)

- ・漠然とした介護の不安を持っていたが、どういうことが重要なのか少し分かりました。
- ・もしもの時の事を家族で話し合う必要性を感じました。
- ・若い世代への講座を行う必要があると感じました。
- ・エンディングノートを少しずつ書かなくてはと思う。子供に必要なことをしっかり話したい。
- ・最近、浦安市に越してきたのですが「かかりつけ医」などなかったのでお話が聞けて良かったです。
- ・おひとり様編の講座も行っていきたい。
- ・終末期の医療・介護の実態が良く分かった。更に調べてみようと思いました。

# 市民講座 もしバナ語りの会

実施日: 9月3日(水)

場所: 浦安市文化会館 大会議室

- 講師(ファシリテーター)

タムス浦安病院

地域連携室 室長 村瀬 恵子 氏

- 内容

「もしバナカード」を使い、自分の人生の最終段階の過ごし方について参加者同士で語り合う。

- 参加者 20名

浦安市 在宅医療・介護連携推進事業 市民講座

## もしバナ語りの会

9/3(水)  
10:00~11:30  
参加無料

『もしバナゲーム』を用いて  
最期まで自分らしい暮らしを送ること  
について参加者同士で考えます

『もしバナゲーム』は  
あなたと大切な方が  
「もしものための話し合い(もしバナ)」をする  
きっかけになるゲームです。  
大事にしたい「価値観」や「自分らしさ」に  
気づけるようになります

講師: タムス浦安病院 地域連携室室長 村瀬恵子氏

**会場** 浦安市文化会館  
3階 大会議室  
浦安市猫美一丁目1番2号(市役所隣)  
※浦安市文化会館の専用駐車場はございません  
公共交通機関をご利用ください

**申込** 8/1(金) 午前9時から  
9/2(火) 正午まで

①② いずれかの方法でお申し込みください

① 電話で高齢者包括支援課へ  
☎047-712-6389

**対象** 浦安市在住、在勤の方  
先着 30名

② 右のQRコードから

【主催・問い合わせ】 浦安市 高齢者包括支援課 047-712-6389

## 参加者の感想(抜粋)

- ・「もしバナカードゲーム」は初めてでしたが皆さんの話が聞けて参考になりました。
- ・死生観や深いところにある価値観は普通他人と話せることではないので聞く事ができるのは豊かな機会でした。
- ・非常に参考になりました。自分で購入して家族とやってみます。
- ・日頃は、話題に上がりにくいので、この機会にキッカケとなるといい。
- ・初めて参加しましたが、同年代の人の話が聞けてよかったです。
- ・こういう企画は続けてほしい。

# 多職種連携研修会

浦安市版エンディングノート「わたしの手帖」活用研修 ～「書くことを勧める」から「想いを引き出す」支援へ～

実施日:10月16日(金)

場所:浦安市文化会館 大会議議室

## ● 講師

株式会社鎌倉新書

シニアと家族の相談室 店長

中野 雄平 氏

## ● 内容

- ・浦安市版エンディングノート「わたしの手帖」について
- ・エンディングノートを書くことのメリット
- ・エンディングノートを書くことをどう支えるかについて

● 参加者 52名

職種	人数
医師	1
歯科衛生士	2
薬剤師	6
看護師	12
保健師	1
栄養士	1
社会福祉士	5

職種	人数
介護福祉士	5
ソーシャルワーカー	5
ケアマネジャー	6
生活相談員	1
施設管理者	3
事務職	1
未記入	3

# 多職種連携研修会

浦安市版エンディングノート「わたしの手帖」活用研修 ～「書くことを勧める」から「想いを引き出す」支援へ～

○浦安市版エンディングノートを知っていましたか

回答	人数
知っていた	42
知らなかった	7
合計	49

○日々の支援の中でエンディングノートを活用したいと思いますか

回答	人数
積極的に活用したい	35
どちらともいえない	12
活用のイメージが持てない	2
活用する予定はない	0
合計	49

参加者の約9割がエンディングノートを認識しており、約7割が「積極的に活用したい」と回答した。一方で、活用イメージが持てない層もあり、具体的な活用方法の提示、周知が今後の課題。

# 多職種連携研修会

浦安市版エンディングノート「わたしの手帖」活用研修 ～「書くことを勧める」から「想いを引き出す」支援へ～

## 参加者の感想(抜粋)

- ・他職種で連携することで、新たな学びを得られた。今後も積極的に参加したい。
- ・自分から他の職種の方にアプローチすることは難しいので、このような会は有難い。
- ・持ち歩きやすい、お薬手帳のようなものになったらいいなと思っている。
- ・ACPについて考える良いきっかけとなった。
- ・エンディングノートを書くのは大変というイメージだったが、すべての欄を埋めなくてよい、気軽に記載して良いものと学ぶことができ、職場で説明しやすくなった。
- ・簡易版、是非作成していただければ、手に取りやすいと思う。

# 質疑応答

---

令和7年度実績について

## 2. 浦安市在宅医療・介護連携推進検討委員会 部会の検討内容(報告)

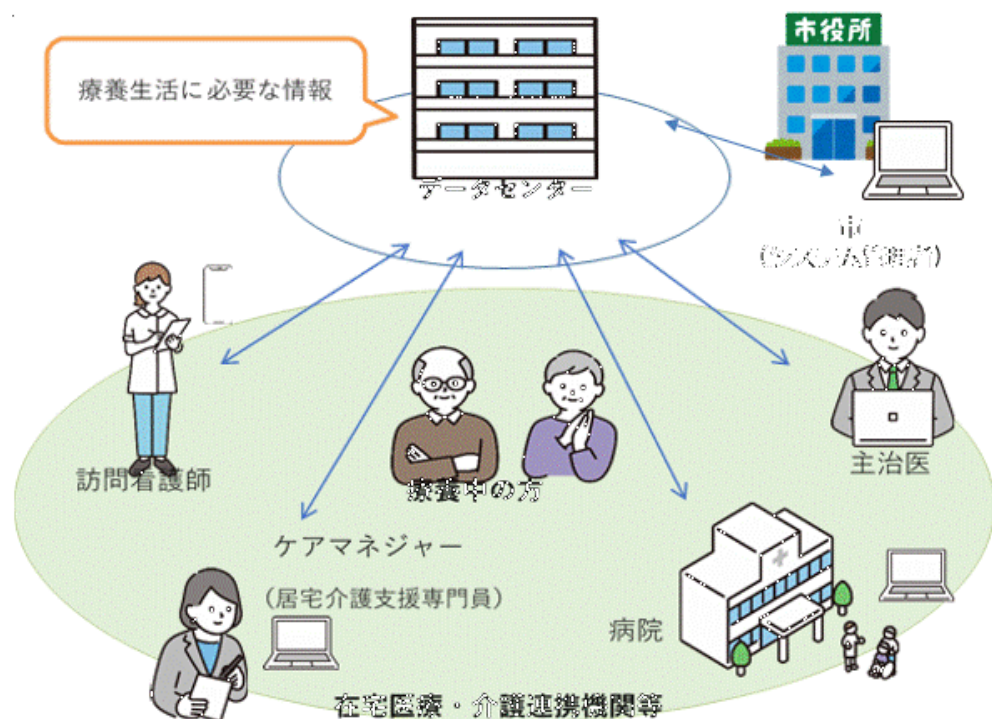
- ① 令和9年度以降の『浦安市情報共有システム』の運用について
- ② 『簡易版エンディングノートの作成普及』について
- ③ 地域新聞への在宅医療・介護に関するコラムの掲載について

## 2. 浦安市在宅医療・介護連携推進検討委員会 部会の検討内容(報告)

- ① 令和9年度以降の『浦安市情報共有システム』の運用について
- ② 『簡易版エンディングノートの作成普及』について
- ③ 地域新聞への在宅医療・介護に関するコラムの掲載について

# 浦安市在宅医療・介護情報共有システム

患者、要介護者等の情報を関係者間で共有することができるクラウドサービス(インターネット回線を利用して情報共有を行う)です。((株)カナミックネットワークが提供する「カナミッククラウドサービス」を使用)



## 【契約期間】

令和4年11月2日～令和9年10月31日

## 【患者稼働部屋数】

令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
1件(1)	4件(3)	4件(1)	1件(0)

※令和4～6年はモデルケースを3件含む

※カッコ内は新規立ち上げ数

# 在宅医療・介護連携推進検討委員会 部会

名称:在宅医療・介護連携推進検討委員会 部会  
(旧:浦安市情報共有システム部会)

内容:

- ・システムの現状の把握と課題の抽出、解決策の検討
- ・システムの運用、ルールの検討など

構成員:委員会委員所属団体から推薦された方

令和6年4月 設置

浦安市在宅医療・介護連携推進検討委員会

- ・在宅医療・介護連携推進に向けて検討
- ・部会の内容確認

在宅医療・介護連携推進検討委員会 部会

## ① 浦安市情報共有システムの活用を検討

- ・システムの運用
- ・ルールを検討
- ・令和9年度以降のシステムの導入について

## ② 在宅医療・介護連携の推進を検討

- ・現状の把握と課題の抽出
- ・解決策を検討

# 令和6年度 検討結果

ICTシステムが医療-介護の  
連携のために必要か

不要

現システムに  
限らずICTシステムが  
必要であるかどうか

必要

市が主体となって導入するシステム

市が主体である  
必要があるかどうか

不要

必要

R9まで現システムを使用

・契約期間  
・新たなシステム導入の時期

する

しない

R9以降現システムと同等のセ  
キュリティを持ったシステムを  
導入

A

現システム解約 & 現システムと同等  
のセキュリティを持ったシステムを  
導入(※予算確保が困難)

B

各々の機関・職種の  
利用目的に適した  
システムを利用する

C

電話・Fax等を利用

D

## 【A】に至った経緯(委員会、部会での意見)

- ① 浦安市のセキュリティポリシーが改定される可能性。
- ② 現システムが使いやすいものに改良される可能性。

契約満了(令和9年度)までに①、②がある可能性もあるため、現システムを利用しながら、令和9年度以降のシステムについて検討する。

	変更 (令和7年度10月時点)	内容
浦安市セキュリティポリシー	無し	・ 個人情報の取り扱いに関する変更はなし。
現システム	一部あり	・ ID/PWの発行にかかる時間が削減。 (10日→1~3日) ・ コミュニケーションに関わる機能、ログイン、 ホーム画面に関する変更はなし。

### 【浦安市セキュリティポリシー】

今後導入するシステムにおいてもカナミックシステムと同等のセキュリティが求められるため、2段階認証は必須。

### 【現システム】


簡便なログイン、ホーム画面のレイアウトの変更などの変更はないため、機能面での課題の解決は困難。

現システムと同等のセキュリティを備えたシステムを  
新たに導入する必要性の検討が必要

## 【課題】

現システムと同等のセキュリティで

新たなシステムを導入した場合に、**多くの利用を見込むことが出来るか。**

 再度、フローに立ち返り、情報共有システムの必要性について検討。

令和7年度  
検討結果

現システムに限らずICTシステムが必要かどうか

ICTシステムが医療-介護の連携のために必要か

不要

必要

市が主体である必要があるかどうか

市が主体となって導入するシステム

不要

必要

・契約期間  
・新たなシステム導入の時期

R9まで現システムを使用

する

しない

R9以降現システムと同等のセキュリティを持ったシステムを導入

A

現システム解約 & 現システムと同等のセキュリティを持ったシステムを導入(※予算確保が困難)

B

各々の機関・職種の利用目的に適したシステムを利用する

C

電話・Fax等を利用

D

- 現システムと同等のセキュリティをもつシステムである場合、普及が見込めない。
  - ・浦安市セキュリティポリシーが適用となる。
  - ・電子証明書や2段階認証は必須。
  
- 現システム導入を検討していた時期とICTについての考え方が大きく変わった。  
(令和元年～令和2年頃)
  - ・コロナウイルス流行を経て、ICTでの連携を手軽に行うことができるようになった。
  - ・無料で利用できるシステムの方が簡便で、利用しやすい場合が多くある。
  - 市が情報共有システムの主体である必要性が薄まった。
  - それぞれの部署、職種が利用しやすいシステムを使った方がよい。



令和9年度の現システムの契約満了をもって、市として情報共有システムの導入をしない。

# 質疑応答・意見交換

「令和9年度以降、市が主体となった情報共有システムを導入しない」という部会としての結論について、意見をお聞かせください。

## 2. 浦安市在宅医療・介護連携推進検討委員会 部会の検討内容(報告)

- ① 令和9年度以降の『浦安市情報共有システム』の運用について
- ② 『簡易版エンディングノートの作成普及』について
- ③ 地域新聞への在宅医療・介護に関するコラムの掲載について

# 検討テーマ

## ○ 単身高齢者(身寄りのない高齢者)への支援についての検討より

	課題	実現可能な対策	
1	本人の意思が分からない	<u>・簡易版エンディングノートの作成普及</u>	<ul style="list-style-type: none"><li>・手軽に自分の気持ちを示すことができると良い。</li><li>・簡単に書けるものであれば、市民に勧めやすい。</li><li>・ページ数が少ないものであれば支援者が一緒に書く時間を確保しやすい。等</li></ul>
2	本人・子世代の準備不足	<ul style="list-style-type: none"><li>・市民講座の開催</li><li><u>・地域新聞などに在宅医療・介護に関するコラムを掲載</u></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・最期を迎えるまでのプロセスについての考え(イメージ)を持っていることが重要。</li><li>・(親)支援を行う子世代のための準備が不足している。</li><li>・(子)親の支援を行う準備、心づもりが出来ていない。</li></ul>

# 『簡易版エンディングノート』の作成メンバー

②『簡易版エンディングノートの作成普及』について

※ 部会員から選出

	団体名・所属名等	氏名
1	浦安市医師会	
2	浦安市薬剤師会	
3	浦安市介護事業者協議会	
4	浦安市ケアマネジャー連絡会	
5	浦安市訪問看護ステーション連絡協議会	
6	医療法人社団 城東桐和会 タムス浦安病院	
7	浦安市地域包括支援センター	

※敬称略

### \* 配布した簡易版エンディングノートをご覧ください。

簡易版エンディングノートに記載されている内容は、ワーキングメンバー・部会員により通常版エンディングノートから抜粋し、作成しています。

#### 作成するにあたり注意したこと

- ① 主に通常版の重要だと思ふ部分を抜粋すること
- ② 持ち運びが可能なサイズであること
- ③ 医療や介護のみの内容にならないこと



# 『簡易版エンディングノート』オリジナルの項目

②『簡易版エンディングノートの作成普及』について

ページ	内容	通常版	追加理由
P2	大切な判断を任せたい人	キーパーソン	・キーパーソンは専門用語。 ・家族以外も記載しやすくなる。
P3	事業所、担当ケアマネジャー	記載なし	・ケアマネジャーが誰か分かると、ノートを見た支援者が連携しやすくなる。
P8	主な延命治療の種類	記載なし	・延命治療とは何かを知って記載して欲しい。 ・支援者が説明しやすくなる。
P13	わたしの手帖の保管場所	記載なし	・書いた内容が支援に反映されやすくなる。
P13	この手帖を一緒に書いた人	記載なし	・本人意思の信頼性があがる。 ・話し合いの記録になる。

今後の進め方

令和8年4月中旬より、配布を開始。

### 目的

「働き盛りの子世代」に親の医療や介護に関する課題に直面する前に『今』から家族で備え、話し合っておくことが重要だと知ってもらうこと。

### 誰に伝えたいか

- ・ 高齢者の子世代（40～60歳代）
- ・ 高齢者

### どのようなことを伝えたいか

1. 「もしも」の前に、「今」話し合うことの重要性(価値)。
2. 「専門職等」が、在宅医療・介護について支援をしてくれるということ。
3. 「在宅医療・介護」という選択肢は、方法によっては実現可能であるということ。

# コラム掲載順と内容

## ③ 地域新聞への在宅医療・介護に関するコラムの掲載について

番号	場面	職種など	インタビュー
1	入院～退院に向けて	入退院支援	順天堂大学医学部附属浦安病院 斎藤 奈緒子（入退院療養支援室）
2	退院後に介護サービスが必要と見込まれる	介護保険に関する相談	浦安市地域包括支援センター 榎本 あゆみ
3	家に帰る目途が立つ時期	ケアマネジャー	浦安市ケアマネジャー連絡会 大輪 美保
4	サービスの調整時期	訪問看護、リハビリなど	未定

※敬称略

- ・ 実際の入院～在宅までの支援の順番にコラムを掲載したほうが読者が一連の流れを掴みやすい。
- ・ 全ての読者が1～4の順に当てはまるとは限らないことに加え、部会員は、多くの職種、所属の者で構成されているため、5回目以降はそれぞれの視点からコラムを掲載予定。

今後の進め方

3月中旬～下旬にインタビューを実施し、4月以降コラムを掲載。

# 質疑応答・意見交換

お配りした「簡易版エンディングノート」の内容について意見をお聞かせください。

- ① 取り入れた方がいいと思う項目（校正を行う上での参考にさせていただきます。）
- ② 効果的な簡易版エンディングノートの普及啓発の方法（配架場所や配布方法の参考にさせていただきます。）

# 令和8年度 スケジュール(案)

## 【部会】

月	内容
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和8年度部会・委員会の検討テーマについて</li> <li>・市民講座の内容検討</li> <li>・コラム掲載者の決定</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡易版エンディングノート振り返り</li> <li>・多職種連携研修会内容検討</li> <li>・令和9年度以降の委員会の開催方法について</li> </ul>
11月	・未定
1月	・エンディングノート校正

令和8年									令和9年		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	部会		部会				部会		部会		
				委員会						委員会	